

1) りんご

(1) 防除法(殺虫剤)

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～3000」等と記載した10a当り散布液量(または希釈水量)は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量(または希釈水量)の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
アブラムシ類	4月～9月	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ・ユキヤナギアブラムシ アクタラ顆粒水溶剤 アドマイヤー水和剤 アルバリン顆粒水溶剤 キラップフロアブル コルト顆粒水和剤 サイアノックス水和剤 スタークル顆粒水溶剤 スミチオン水和剤40 ダイアジノン水和剤34 ダントツ水溶剤 テルスター水和剤 トランスフォームフロアブル バリアード顆粒水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 モベントフロアブル ・リンゴミドリアブラムシ アクタラ顆粒水溶剤 アドマイヤー水和剤 アルバリン顆粒水溶剤 キラップフロアブル コルト顆粒水和剤 スタークル顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 テルスター水和剤 トランスフォームフロアブル バリアード顆粒水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 モベントフロアブル ・リンゴコブアブラムシ アクタラ顆粒水溶剤 アドマイヤー水和剤 アルバリン顆粒水溶剤 キラップフロアブル コルト顆粒水和剤 スタークル顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 トランスフォームフロアブル バリアード顆粒水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 モベントフロアブル	○ リンゴコブアブラムシは葉を巻くように加害する。
カメムシ類	7月下旬	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アクタラ顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 キラップフロアブル スタークル顆粒水溶剤 スミチオン水和剤40 ダントツ水溶剤 テルスターフロアブル モスピラン顆粒水溶剤	
キンモンホソガ 「	越冬期 (12～3月) 4～8月	○ 冬期間、落葉を集めて焼却または埋設処分する。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ・成虫発生初期 アクタラ顆粒水溶剤 アディオン水和剤 アドマイヤー水和剤 アルバリン顆粒水溶剤 カスケード乳剤 キラップフロアブル コテツフロアブル サイハロン水和剤 サムコルフロアブル10 スカウトフロアブル スタークル顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 デミリン水和剤 ノーモルト乳剤 パーマチオン水和剤 モスピラン顆粒水溶剤	○ 落葉中の蛹で越冬する。

ギンモンハ モグリガ	4～9 月	○ 次の薬剤いずれかを成虫発生盛期に散布する。 アクタラ顆粒水溶剤 アドマイヤー水和剤 アルバリン顆粒水溶剤 カスケード乳剤 キラップフロアブル サムコルフロアブル 1 0 スタークル顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 デミリン水和剤 ノーモルト乳剤 モスピラン顆粒水溶剤	○ 発生回数が多いので防除 時期に注意する。
コナカイガ ラムシ類	越冬期 (12～3 月) 5～8 月	○ バンド誘殺を行い、冬期間に粗皮削り、被害果袋処 理などの園内清掃を行う。 ○ マシン油乳剤または石灰硫黄合剤を散布する。 (「落葉果樹」の項 参照) ○ 幼虫のふ化期に次の薬剤いずれかを散布する。 アクタラ顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 スミチオン水和剤 4 0 ダイアジノン水和剤 3 4 ダントツ水溶剤 トランスフォームフロアブル	○ 薬剤は、枝幹にも十分散 布する。
ケムシ類	越冬期 (12～3 月) 4～9 月	○ 冬期間、園内を清掃する。 ○ 幼虫ふ化初期の群生している枝を除去して焼却す る。 ○ 幼虫発生時に次の薬剤いずれかを散布する。 アタブロン S C サムコルフロアブル 1 0 ダイアジノン水和剤 3 4 ○ 果樹類の登録薬剤を散布してもよい。 (「果樹類」の項 参照)	○ マイマイガ、ウメケム シ、モンクロシャチホ コ、ヒメシロモンドクガ など。
シンクイ類	越冬期 (12～3 月) 5～9 月	○ バンド誘殺を行い、冬期間に粗皮削り、園内清掃を 行う。 ○ 幼虫期に次の薬剤いずれかを数回散布する。 アクタラ顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 サイアノックス水和剤 サムコルフロアブル 1 0 スタークル顆粒水溶剤 ダイアジノン水和剤 3 4 ダントツ水溶剤 バリアード顆粒水和剤 フェニックスフロアブル ディアナ WDG ○ 多発園では、殺虫剤散布の補助手段として、コンフ ューザー A A またはコンフューザー N、コンフューザ ー R (性フェロモン剤) を使用してもよい。 (「環境にやさしい防除法 4) 性フェロモン剤」の 項 参照)	○ 付近にももがある場合は 芯折れの発生に注意し見 つけ次第除去する。
ハダニ類	越冬期 (3 月) 4～8 月	○ 次の薬剤のいずれかを散布する。 ・リンゴハダニ越冬卵 マシン油乳剤 石灰硫黄合剤 (「落葉果樹」の項 参照) ・リンゴハダニ アーデント水和剤 オマイト水和剤 カネマイトフロアブル コロマイト乳剤 スターマイトフロアブル ダニゲッターフロアブル ダニコングフロアブル ダニサラバフロアブル ダニトロンフロアブル バロックフロアブル ピラニカ水和剤 ダニオーテフロアブル	○ マシン油乳剤、石灰硫黄 合剤については、風のな い暖かい日を選んで散布 する。 ○ 園地を見守り、ハダニが 1 葉当り 3 頭以上寄生し ている場合には防除を実 施する。 ○ コロマイトは 8 月以降に 展着剤を加用せず単用で 使用する。 ○ バロックフロアブルをボ ルドー体系で使用する場 合は、ボルドー液散布と 14 日以上の間隔をあけ て散布する。 ○ ダニオーテフロアブルは 銅剤との混用や銅剤散布 後に本剤を散布すること は避ける。また、本剤の 散布後に銅剤を散布する 場合は 10 日以上間隔を 開ける。

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
ハダニ類 (続き)		・ナミハダニ - アーデント水和剤 - オマイト水和剤 - カネマイトフロアブル - コテツフロアブル - コロマイト乳剤 - スターマイトフロアブル - ダニゲッターフロアブル - ダニコングフロアブル - ダニサラバフロアブル - ダニトロンフロアブル - バロックフロアブル - ピラニカ水和剤 - マイトクリーン - マイトコーネフロアブル - ダニオーテフロアブル	○ コテツフロアブル、カネマイトフロアブル、マイトコーネフロアブル、ダニゲッターフロアブル、ダニサラバフロアブルをボルドー体系で使用する場合は、ボルドー液散布との間隔を 14 日以上あけて散布する。 ○ ナミハダニに対し、ダニトロン、ピラニカ、マイトクリーンは効果が劣る事例が多いので注意する。 ○ ダニオーテフロアブルは銅剤との混用や銅剤散布後に本剤を散布することは避ける。また、本剤の散布後に銅剤を散布する場合は 10 日以上間隔を開ける。
ハマキムシ類	越冬期 (12～3 月) 4 月中旬 ～8 月	○ 剪定時に越冬幼虫、卵を擦りつぶして除去し、粗皮削りを行う。 ○ 若齢幼虫期に次の薬剤いずれかを散布する。 アタブロン S C オリオン水和剤 4 0 サイアノックス水和剤 サムコルフロアブル 1 0 スミチオン水和剤 4 0 ○ 果樹類の登録薬剤を散布してもよい。 (「果樹類」の項 参照)	○ リンゴモンハマキが優占種である。 ○ 同一殺虫剤の連用は避ける。
シンクイガ	6 月中旬 ～9 月上旬	○ 被害果を幼虫脱出前に摘み取り、5 日以上水漬する。被害果処理は必ず実施する。 ○ 産卵期に次の薬剤いずれかを約 10 日間隔で散布する。 アーデント水和剤 アクタラ顆粒水溶剤 アディオオン水和剤 アルバリン顆粒水溶剤 オリオン水和剤 4 0 キラップフロアブル サイアノックス水和剤 サイハロン水和剤 サムコルフロアブル 1 0 スカウトフロアブル スタークル顆粒水溶剤 スミチオン水和剤 4 0 ダイアジノン水和剤 3 4 ダントツ水溶剤 テルスターフロアブル パーマチオン水和剤 バリアード顆粒水和剤 フェニックス顆粒水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 フェニックスフロアブル ディアナ WDG ○ 激発園では袋掛けを行う。 ○ 多発園では、殺虫剤散布の補助手段として、コンフューザー A A またはコンフューザー N、コンフューザー R (性フェロモン剤) を使用してもよい。 (「環境にやさしい防除法 4」性フェロモン剤」の項 参照) ○ 果樹類の登録薬剤を散布してもよい。(「果樹類」の項 参照)	○ 薬剤は、果実に十分付着するように散布する。

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
リンゴワタムシ	6月～9月	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ダイアジノン水和剤34 ダントツ水溶剤 トランスフォームフロアブル バリアード顆粒水和剤 マラソン乳剤	
オオタバコガ		○ 中齢幼虫期に次の薬剤を散布する。 サムコルフロアブル10	○発生の多い園地では発生に応じて散布する。
ヒメボクトウ		○ 収穫前日までに以下の薬剤を樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射する。 ロビンフッド	